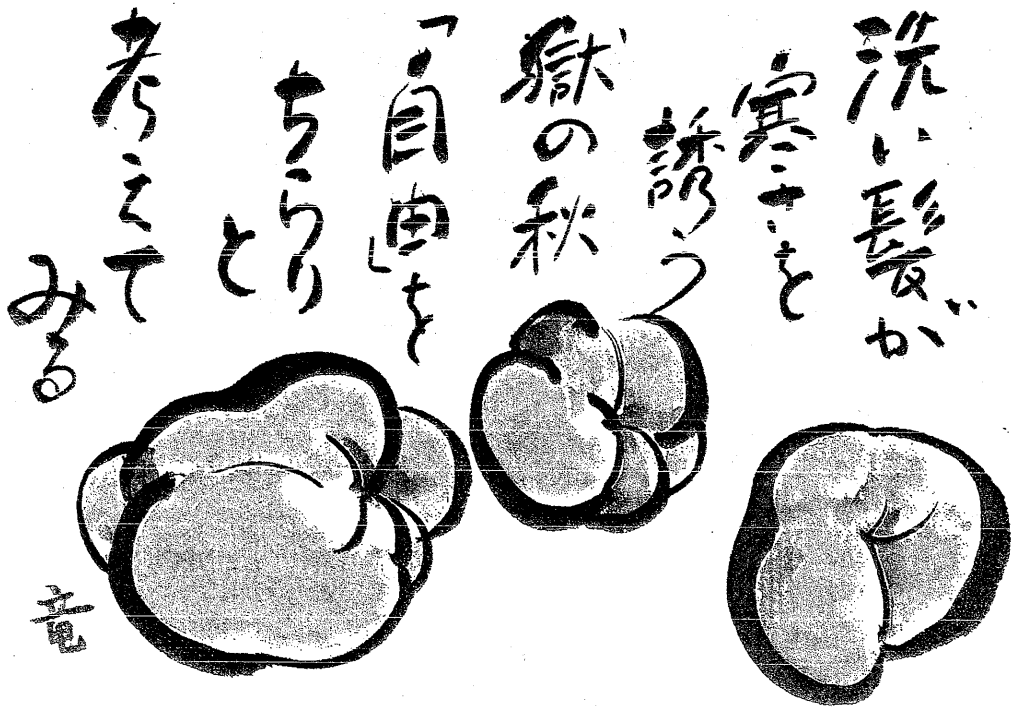


# オリーブの樹

第114号

2012年11月18日 شجرة الزيتون

早期釈放！ 重刑策動をはね返し、重信さんを支えていこう！



## 目次

- P 2 9月10月の歌 重信房子
- P 3 戦友 若松孝二兄追悼 重信房子
- P 4 独居より 重信房子
- P15 アラブ物語 (21) ステーションとしての党八 (3) 重信房子
- P18 さわさわの頁

重信房子さんを支える会

九月十月の歌

戦友 若松孝二兄追悼

重信 房子

重信 房子

剥き出しの義理と命を引っ提げて

殉教者の如く駆けぬ抜けし君

若ちゃん 唐突な訃報に驚き呆然としたまま帯れた一首です。今の私の実感がこんな歌になりました。

あれは71年夏、ゴラン高原からジェラシと戦場を撮影し駆け巡りながら、パレスチナ解放の戦友として生きていくことになったな、と語り合いましたね。戦場にまだ残りたいという私たちの希望を却下し、最後まで危険から守ってくれたパレスチナの戦士たち。最後の陽気な宴を経て、私たちがベイルートにたどり着いた直後から、ヨルダン軍に総攻撃を受けて殺されたジェラシの仲間たち。生き残った仲間も絞首台につるされた姿が日々新聞に載りました。「金儲けなんて出来ないな、ここでは。あんなやさしかったコマンドたちがあつという間に殺された。受けた義理は返さないなあ」。涙ぐんでいた若ちゃん。

あの時からパレスチナ解放を基点として、以来若ちゃんは生まれゆく「アラブ赤軍」「日本赤軍」の仲間であり、同伴者であり、PTAのように共に歩みました。すでにジェラシで殺されたパレスチナの戦友たちの映像の残る『赤軍-PFLP・世界戦争宣言』を仕上げ、足立さんたちや訪日したPFLPの仲間が上映運動として全国を巡りました。この上映運動のために、私の依頼で遠山さんも若ちゃんとお会いすることになりましたね。そしてリッダ闘争の前に、若松プロを訪れたパレスチナに向かう岡本公三さんを励まし、カンパして送り出しています。リッダ闘争の後には、ガサ入れ弾圧に抗して闘いへの支持を表明してくれました。そして数えきれないほど何度もアジトや軍事キャンプで共に過ごし、正月には餅やお節料理を担いで来てくれましたね。そうした共に過ごす時の本音の若ちゃんは、私たちの刺戟であり、批判精神は力でした。

70年代、73年10月、第4次中東戦争の最中、出版社の前金とカンパを持って来てくれ、友人佐々木守さんと共に『わが愛わが革命』の本づくりもプロデュースしてくれました。75年から始まったレバノン内戦下のベイルートのアジトでのことも思い出します。若ちゃんが来てるからとベイルート不在だった私が駆けつけた時のことです。丸岡さんが笑いをこらえなが

ら、「若ちゃんがお前ら100%信用する！って言うてる」と言うのです。「若ちゃんが『おい！アツちゃんがこまめに掃除するだけじゃなく、使い古したビニール袋を洗って干してる！人間は変わるもんだねえ。洗ってまた使うって言うんだ。オレ感動した。あのアダチだよ！日本の奴らも見習ってもらいたい』って言いながら、お前ら信用することに決めたって」と言い、横では足立さんも苦笑い。「オレもやる！」と、日々の点検や反省会に果敢に参加して楽しんでいました。でも次に来た時には、私たちの日々の点検のやり方がおかしいと、「何だい！『シヨンベンしようとして、クソしてしまいました』みたいなの。そんな些末なこともういいだろう。やっぱ次から、オレ批判されないようにホテルがいいや！」と言ってました。内戦下、戦乱に足止めされて内向きに観念的な私たちの批判のあり方を批判してくれましたね。

80年代、イスラエルが82年夏、ベイルートを包囲し、パレスチナ解放勢力は海路ベイルートからの撤退を余儀なくされました。でもすぐ陸路からとって返して、ベイルート解放に向けて、レバノンの民族的、進歩的勢力と共同し、パレスチナ解放勢力と共に私たちもベカー高原に陣地をつくり、84年にはベイルートを解放しました。ベカー高原の果樹園の軍事キャンプは、若ちゃんのもっともお気に入りでした。キャンプ内の200メートルほどの一本道、両側にポプラ並木の伸びきった狭い一本道を「ここはなんとか映像に残したい！ダメだろうなあ。来るたびに撮りたいと思う。春はオレンジやリンゴの白い花に新緑のポプラ、夏にはたわわなオレンジ、秋は降りしきるポプラの落葉。いいアングルだなあ。撮りたいねえ」と腕組みしては、空高く伸びるポプラを見つめていました。

このキャンプには若ちゃんを慕う若者何人かを「行儀見習いに入れてくれ」と連れて来たりしましたね。夏にはブロックを積んで自前の小屋をつくり、夜は降るような星を明りに歩哨に立つ仲間、若ちゃんも若者も軍服姿で共にしました。そんな若者たちから批判されると、「うるせえ！なんだお前ら。オレだって日本帰りや、カントク、カントクって言われるんだぞ！」と怒り、「そんなの関係ないっす」ってやり返されてい

ひぐらしの鳴かないままに萩雫れ足音もなく秋となりぬる

秋雨浴びむくげ一輪残り花夏を惜しむか淡紅深し

逝く夏の区切りとすべし瘡治療正常値示す日髪を切りたり

獄窓より眺むる道に傘一つ悩み歩むか遅々遠ざかる

朗らかな便りに隠れた悲しみを問わずに返す友のやさしさ

二十代駆け足デモで高速を逆走した日も空笑う青

銀の巢に揺られひねもす待ちぼうけ足長蜘蛛は開店休業

汗ばみつアレーナ駆ければ赤とんぼツンツンと頭上に遊ぶ

「ベイルートはジャスミンの風の匂う街」何度も言いし君死に給う



ましたね。でも若者たちの居ないところでは、「まったくあいつら。まあ、こっち来ると命の洗濯だよ」と笑ってましたね。若ちゃんは口の悪さとは裏腹に、いつでもパレスチナの友人や私たちの仲間の命をいつも心配してくれました。

90年代、89年の東欧崩壊からソ連も解体し、アメリカの力が中東全域に及びはじめました。あの時、もうアラブに聖域がなくなり、ペイルートもベカー高原も安全には存在できないだろうと私たちの覚悟を伝えた時、「あのラテンアメリカの国は何かならないのか？ お前らのためにちゃんと金はとってあるから、土地を買って生きのびろ！」ケチの若松が本気なんだから」と真顔で説得してくれました。

そしてまた、私が逮捕された直後から、メイの帰国のために尽力してくれたのも若ちゃん、あなたでした。弁護士と協力して、ペイルートまで行ってくれたので、子供の時から若ちゃんを知るメイはどんなに心強かったことでしょう。

若ちゃんと戦友として本音で向き合い、語り合った数々を感謝と共に思い返しています。足立さんをはじめ、どの戦友も同じ想いにちがいません。若ちゃんの映画は共に歩んだ人生観の広がりの中で、一つ一つ節目を築きながら、これからさらにパワー全開の時でした。「最後にはやっぱりパレスチナを撮りたい。子供たちの目線から」と、いつか言っていた若ちゃん。

存分に思いのままに生き、まだまっとうすべき役割があるにもかかわらず殉教の旅に出たリッダ闘争の戦士たちを思い返しながらか、若ちゃんの生と死を重ね、永別をこらえきれずにいます。

御家族のみな様、若ちゃんが照れつつ愛した娘たちに、お梅やみと共に、悲しみを強きに変えて生きてほしいと願って追悼の挨拶とします。

(本原稿は、来年2013年1月、河出書房新社発行のムック「文藝別冊 若松孝二」と本誌宛に書かれたものです。河出の了承を得てここに掲載しました。)

独居より 9月7日～11月30日

「最後はやっぱりパレスチナを撮る」って言ったよね……

重信 房子

9月7日 風の道すがり追うごとと遣い伸びる

風船かざらの揺れる夕暮

今日は白露。秋の野草に露が宿りはじめるアキ。窓の外にも赤とんぼが時々すいすいと飛んでいきます。

「9月25日秋彼岸法会参加しますか？」との知らせに「参加しまーす」と答えました。

宮崎先生、楽しい本をありがとうございます。「紙の爆弾」その他もありがとうございます。アドレス違いで戻ったというカンパもありがとう。

9月10日 今朝はもう蝉の鳴き声が聞こえませんでした。週末は虫の鳴き声盛大。

昨日はオスプレイの米軍普天間飛行場への配備に反対する沖縄県民大会があり、友人たちも参加したでしょう。電気は間に合っていたのに原発再稼働、企業優先の消費税増税、オスプレイに見られる米政策への従属、国民の要求と無関係な党首選、この国は大震災も津波も「フクシマ」も政治家には他人事のような扱い。権力にしがみつく自民・民主連合の政権が来年にも生

まれそうな不健全さです。あきあめずに「脱原発」「オスプレイ反対」の波が新しいものをつくっていくのですね。

9月11日 新聞朝刊でも“9・11”のことは一つもない。でも届いた10日夕刊に、沖縄では10万人を越える「オスプレイ配備反対」の県民集会が開かれたことと沖縄の人々の声が少し載っています。9・11から11年、プッシュも小泉も責任を取らず、「反テロ」戦争の後遺症がアフガニスタン、イラク、中東ばかりかグローバルな格差の広がりをなしています。

9月12日 晴天続きで関東は節水が問題になりはじめています。今日も8月の暑さ。ベランダの運動から戻ると、布団は干すために持ち出されてました。それにノート検査、入浴、日用品の購入書込みと9月になって気ぜわしい日常です。薬のせいで安静時間以外の3:00～夕食、5:00点呼～9:00減灯もベッドでごろんとしています。食欲出てくれば体力もア

ップするはず。18日に腫瘍マーカーと白血球チェックの血液検査をし、10月の第3クールでこの補助治療は終わります。もう蝉も鳴かず、とんぼが飛び交い、夜は虫の鳴く秋です。八王子の秋は今年限りとなりそうな私。体力を回復しておかなければと思っています。次に向けて！

9月15日 朝の風が冷たくなったけど、昼間はやはり30℃を越えています。今日窓の外、南の運動場は少し高くなって土手がこちらを向いていますが、そこに並び咲く萩がいつせいにピンクの花をつけています。昨日いただいたI子さんのお便りに、奥嵯峨にお弁当作ってドライブし、おみなえしの黄色い一面の群生を見たと伝えてくれました。「柚の里も近く、まだ小さい緑の実がたくさんなっていて、心穏やかになります」とのこと。

夜は虫の鳴き声リーンリーン、ジージー、いろんな虫時間です。

9月17日 にわか雨暑さ鎮めて匂いたつ

咲き初む萩の秋風となる

いつの間にか、敬老される側になって過ごしている敬老の日。萩はきれいに風にそよぎ、午後突然の風とにわか雨。すぐにあがると陽が再び射して、久しぶりの天の恵みの雨でした。星膳はドーナツが祝いとして添えられていました。

新聞では「尖閣列島国有化」に抗議する中国の反日デモが80都市に広がっているとのこと。でも当然にもこうなるのが、なぜ日本の政治家がわからないのか不思議。「自分の領土を日本が盗んだ」と思っているのですから。野田首相は無責任な挑発者の石原都知事に競合して対処したつむりの「国有化」が、国際問題となると深く考えていない脳天気さでした。あわててますます混迷へとひき続き道を開いていますね。「領土問題」は戦争か棚上げか譲渡しかないのに。結果的にアジアの不安定をつくり出しているのは日本です。グローバル経済の矛盾は排外主義と国家権力の強化を生み出し続けています。加えて「米依存」を競いながらの民・自の党首選は、日本の市民住民の不安とまったくかけ離れています。局面を変える兆候はやはり下から横へと人々が切実に訴える暮らし方の変革——脱原発、年金や福祉切り捨てへの抗議やオスプレイ・消費税反対——の質と量の広がりの中で醸成されていくはずで

す。中東の民衆の姿を思いつつ敬老の日を過ごしています。

9月18日 今朝は採血。補助治療第2クールの腫瘍マーカーをチェックするためです。連休明け、入浴前に野外運動がありました。ラジオ体操のあと久しぶりに走って1周。2周は走りたかったけどしんどい。あとはウォーキング。患者たちと話しながら。「昨日の祝日のドーナツどうよ？」「いまいちだったね」「期待してたのに」「あら、おいしかった」と話しています。戻って入浴。これはうれしいタイミング。これまで入浴日と屋外運動日は必ず別の日だったからです。3連休変則でラッキーでした。

Mさん、Uさん、お便りありがとう。Tさん農場便りとインティファダ9・29のパレスチナ連帯の関西の集いなどありがとう。「救援」や「人民新聞」(足立さんの中東情勢についての発言載っているもの。がんばってますね！これからも！)その他、資料や雑誌もありがとうございます。Kさんの活け花、からすりのつぼみありがとう。今手紙書いていたら届きました。楚々としていいですね！高校の同窓会いいものですね。私は行きたくても行けないけど、同窓会の旧友の寄せ書きを送ってくれた時は涙ぐんでしまいました。Kさん励ましありがとう。食欲の秋、もりもりといきます！

運動会は10月11日と告知されました。「DrのOKも出ているので参加しますか？」と、担当の方に聞かれましたが、「見学」としました。競争して若い人と走るほどは、まだまだです。今日だって、100メートルのグラウンド1周でフーフー言っている私です。

9月19日 昨夜盛大な雷続きでしたが、起床前からずっと秋雨。雨がほとんど降らなかったのも、植物にとっては恵みの雨です。新聞朝刊は、昨日の「柳条湖事件の日」の反日デモの様子や尖閣諸島をめぐる記事で埋められています。日本軍の侵略、植民地支配、731部隊のような犯罪など、ていねいに日本の歴史の一部として教育してこなかったばかりか、かつてを美化するような政治家の言動の積み重ねで逆撫でする日本側。みずからの土地や故郷、言語までも奪われた歴史の上に友好を目指そうとした中国側。周恩来の戦争賠償免除の日本への寛大な談話を、多くの国民、ことに旧日本兵は涙で受けとめたという記事を読んできた

世代の一人の私です。ドイツがナチズムの反省から、常に現在の問題として戒め、取り締まるのに対して、日本はあまりにも「過去の問題」と片づけて、やりた放題の無神経。今回の尖閣問題も私にはそう見えませ。反省と寛大さを問われるのは抑圧した側こそです。メディアの煽動が国民を右へと導き、見通しのない政治家がさらに拡声器のような具合。でも多くの日本人は、中国より日本の政治にあきれているでしょう。

午後、雨が止みましたが曇天。申し込んでいた整髪に呼ばれました。まだ暑いので短くカットしてもらいました。短すぎたかな。Mさんとても貴重な往復書簡ありがとうございます。10月を楽しみにしています。

9月20日 秋晴れ!といった感じの朝。もう夏の名残りは終わったような朝です。午後、主治医の診察。9月18日の血液検査結果を知らせてくれました。腫瘍マーカーCEAは4.6、CA19-9は10.7、AFP8.1、PIVKA17.0。4つの腫瘍マーカーは消化器、肝ガンなどのチェックですがどれも正常値でした。「前回よりCEAが少し増えたが、正常値5以下の範囲なので問題なし」とDrに言われました。また歯科治療、前から話していたことですが、ここでは東京拘置所同様に歯の応急処置しか行わず、技工士などの必要な台のいる義歯入れ歯はできません。この件で主治医の方で話してくれて、「新法の指名医制度をいかして、弁護士や親族が歯科と交渉し治療する方法」を助言してくれました。当施設に願書を出し、同時に弁護士に話して、義歯を作る希望が叶えそうです。

M子さんありがとう! すごいバイタリティですね。私が「読んで」と送った『反骨のジャーナリスト市長鈴木東民の闘争』(鎌田慧著)を読んで、東民が1934年にドイツから書き送った記事を集めて発行された東民の『ナチスの国を見る』を読みたくて、あちこのネット(アマゾンも売ってない)捜しから国会図書館と若干の大学図書館にあるのを見つけました。それを300ページ以上あるので、読みつつ半分コピーをもらったとのこと。1枚コピー20円! 高価で貴重な読書になりましたね。敬服! またちょうど上映されている「カルロス」見た観想も伝えていただきました。6時間もの長さの映画ですって。「ハーグ事件も第1部で出てきました。Y君がパリの空港の関税で止められ、数冊のパスポートや多額の現金が旅行

カバンから発見されて逮捕されるシーン、多分Yさんかなと思われる女性が、接客中に警察に同行を求められ部屋を捜索されるシーン、ハーグの仏大使館に3人が押し入り、占拠して立てこもったシーンなど。このシーンはすごい迫力がありました。あなたもどこかに出てくるかなと思っていましたが、まったくなし。残念な気もしましたが、ハーグ事件の共同謀議などというのは、仏やオランダでは考えられない立件方法と思いました。日本政府は関係ないのに、後からムリヤリそこにこじつけて起訴するやり方は、もはや超法規措置としか思えません。ドイツRZ(革命細胞)なども幾多の襲撃・殺人・爆破事件など(映画では)やっていますが、実刑2年とかびっくりほど軽い刑です。60年代70年代の闘争の政治犯で、今も獄中にいるのは日本だけです。異常です」とM子さん。重刑とこじつけ・冤罪の政治報復は検察の「正義」独裁を許してきた結果ですね。ところで、時々カルロスから便りが届きますが、本人この映画にはフンガイしているとのこと。チャベス大統領もカルロスを母国ベネズエラに送還を求めたようですが、私は終身刑のカルロスをチャベスのもとには帰国させる気はないようです。でも私はやくざで、そんな取引を平気です。「度量」も時にはあります。82年ペイルートイスラエル侵略包囲下、電気も電話も右翼地区から切断されていた西ペイルートで、ある組織と人質交渉を続けていた仏当局は、ちゃんとそのラインだけつなげて電話交渉を続けていましたもの。お便り資料これから楽しみに待ちます。

9月21日 朝から曇。もう夏日には戻らない秋がはじまったようです。はじめて八王子の予想最高気温が30℃を切って27℃です。「暑さ寒さも彼岸まで」とは本当によく言ったものです。10時昨日の主治医の指示でレントゲン撮影。胸1枚と腹部1枚。手術後、癒着のせいでしょうが、内側が手術あとから痛みが取れないと昨日Drに話したためです。歩いている時には支障ないのですけれど。

午後はメイの面会。アラブのことを書いたり話したり多忙の様子。反米闘争の広がるアラブ、イスラーム圏の様子など、少し話してすぐ時間です。「来週バースデーにまた来るね!」と別れました。

宮崎先生お便りありがとうございます。先生はお元気そう。健康でいてください。いつも楽しい便りに励まされ(手作りの版画がステキです!), 楽しい本の贈

り物を楽しみにしています。感謝。Mさん地元での脱原発の署名、みんなの力を掘り起こしつつ、その行動力には感嘆です。Kさん資料ありがとうございます。交付は来週です。楽しみにしています。

9月25日 降りだしそうな起床時の空。朝食後小雨になって運動は中止。午前中、保健課から、「指名医診察希望願い」に対して申請書が届き、説明を受けました。本人の申請用紙と保健課からの留意事項の各1枚。それに指名医の承諾書類が3枚。これは弁護士宛に送るものです。弁護士や親族、友人たちの協力を得つつ、申請書類をととのえ提出しようとしています。10月からの冬曆(入浴週3回から2回、夏物と秋物の交換など)のための通知回覧が回りました。午後には秋彼岸法会。読経の間に焼香して、その後導師の説話。法然上人の話。ボードに「四苦」や「求道」と記しながら話して下さったのですが、よく聞きとれませんでした。

9月26日 秋晴れ。もう朝方にはカーディガンをはおっています。今日はコーラス。午後、元気な80歳の先生の楽しい指導がみんな好きです。今日は「まっかな秋」「里の秋」の歌唱指導と「花は咲く」を最後に前回の復習。「まっかな秋」を知らない人は? に手を上げたのは年輩の人。私もです。反対に「里の秋」知らない人? と聞かれて若い人が手を上げていました。初めて聞く「まっかな秋」を何回か歌って、「はい、一人ずつ歌いましょう。まずあなたから」と指されてしまいましたよ。楽しいけどソプラノは声が出ない。でも私のあと次々と指名された人はなかなか上手。「こんな機会はないのよ!」と励まされて、みな楽しくいい気分で歌い、先生のガラスをピリピリさせるソプラノに大いに笑いながらすぐ1時間を過ぎて時間オーバー。「また10月!」と、みんなを激励して先生はさっそうと去っていきます。

午後はコーラスから戻って「オリーブの樹」受け取りました。感謝。米澤さんの話も載せて下さってありがとうございます。表紙の風船がずらの花がさすがのうまさ! さっと描いた風に咲く、こころの風船がずらようです! イマジンの英文詞もいいですね! 私のうろ覚えを正しつつ見ながら歌っています。もうすぐ十五夜ですが、月の軌道が窓の視界の上にあがってしまい見えないけど、月を見つつ歌いたい曲です。電子さんの

いろいろなカットの絵ありがとうございます。とんぼも麦わら帽子もゴーヤもみんな好き!

今日は「フォーリンアフェアーズ」や国際ニュース資料なども届きました。Kさん朝顔の青に紫式部の色付いた実が絡まり合って晩夏の(初秋の)写真きれいです。ありがとうございます。Tさん初の沖縄訪問、現地の闘争に心に滲みる感動があったのですね。一步ずつの健闘祈ります。

9月27日 秋晴れ、さわやか。午後主治医の診察。来週10月2日に再度検査し、OKなら4日から最後の補助治療第3クールを行うことになりました。昼膳に明日の誕生日祝いで小さいゼリー60kg、ハウスの「おいしくビタミン」9.1kcalのカップがついてきました。今日は66歳の終わりの日でした!

9月28日 67歳のバースディです。早朝に生まれたと聞いていたので、早朝に窓辺に立って、みんなに感謝。今も教えられ励まされて生きています。新人の気持で年を改めて進みます。それにしても曇空。誕生日を祝してメイが面会に来てくれました。「Happyバースディ」の花の台紙付きYさんから。感謝! 元気なTさんからのお便りもバースディプレゼントのように届きました。「自民党の揃いも揃っての改憲論者たちの総裁選。阿部さんだって! 今結果発表。あらゆる戦線から反撃の烽火をていねいにつないでいかなければ!! 最初は線香の煙でもよし!“一致点を求めて、違いを求めな”です。“志ある老人は決起せよ! 次の人の世のために!!”です」と、不退転の闘いへの気持が、私にも染みます。

新聞ではもう自民党は与党のような党人事を阿部政権のごとく書き立てています。そして9月27日には内閣改造の直前に2人の死刑執行がなされたとの記事。自民党野田派のごとき現内閣は政権交代の理念のすべて捨てて、官僚主導に変えてきた姿がまたも示されました。

今日はまだ満月に2日早いけど、誕生日の月見をしようと、夜中12時過ぎ、窓から見えるように限界まで頭を低くして探すと、満月のような月が窓の真上に見えました。なんだかうれしい。

9月29日 空が笑うような秋晴れ! 今日は晴天につられて気持がさらに良い。

9月29日、日中正常化40周年。72年に国交正常化を感慨をもって迎えた父が、ちょうどリッダ闘争を経てアラブに戻ってきた丸岡さんと新しい道を決めていた頃の私に、漢詩を送ってきたのを思い出します。父は若い頃、大陸にも行ったしまた戦争でも行ったので、心から嬉しかったのでしょう。漢詩を送ってきたのはリッダ闘争後と中国との国交の時だけでしたから。

10月1日 昨日9月尽の中秋の名月は荒々しい台風17号のお出ましでした。夜中大嵐のあとと明の夜、満月を探しましたが、見つけれませんでした。今朝は一転秋晴れ。もう南運動場から運動会準備のにぎやかな声が聞こえます。誕生祝いのお便りありがとうございます。Mさんからは「世界抒情歌全集」のプレゼントもありがとうございます！ 面会9日来てくれるとのこと。待っています。成功を祈ります。「秋分」のデジカメ歌人、家族の祝お便りもありがとうございます。みんなにこちらこそ、ありがとうございます!!

10月4日 もう涼しい秋晴れ。庭の萩ももうほとんど花を落としてしまいました。

今日から最後の補助治療です。10時診察室へ。主治医が「10月2日の血液検査の結果白血球も上がり、好中球も60%を越えているので治療に入ります」とのこと。すぐにCVポートに点滴針を接続して補助治療開始。13時過ぎ点滴は終了。昼食時はまだ薬効が巡ってないためか半分ほど食べましたが夕食からやっぱり吐き気。サラダとうずら豆を少しだけ食べました。ハッピーバースディとステキな「オリオン」の写真絵本それに柳澤桂子歌集「萩」、Iさんありがとうございます。バースディカードのほおずきも！ 私が大好きなの知ってください、ちょうど夕食後の点滴後のリラクセスに、



ととてもうれしいものでした。メイからもありがとう。Mさん9・29関西「オリーブの会」の集いの様子知らせてくれて感謝。それにすごいね！ 9月某町の議会議員選挙。保守の町に看板もカバン（お金）もない若い候補が「脱原発」をMさんやK子さんや選挙もやったことない人々のウグイスおじさんおばさんに支えられて、みごと当選とは！ 人々の生活とかけ離れた政府の政策に、生活する住民たちが切実に変えようとしているのが実感できました。「新人議員はさっそく金曜日夕方（今は首相官邸前だけでなく、電力会社前や県庁前など、全国100ヵ所以上で同時行動が行われています）の関西電力本店前抗議行動に来て、『私は脱原発を掲げて多くの投票をいただきました。関西電力はその意味を考えてください』と話しておりました」とのこと。八王子でも東電八王子へデモはじまっています！ 民主・自民に加えて、「維新の会」もみな自民党の派閥のような現実に、人々の「ノー！」の声が広がりそうな秋です。オスプレイ然り。10・21もさらに盛り上がりそう！ 連帯！ お便り資料他にいただき感謝。カンパもありがとうございます！

10月5日 みごとな秋晴れ。副作用が少しつらい。明日から連休の間がちょうどしんどい時期となさなります。Mさんが面会をトライしてくれる予定が点滴直後の5日今日の予定を来週、火曜日に延期してくれましたが、さて会えるでしょうか。大谷弁護士も指名医の件で来週面会くださるとのこと。来週は面会、運動会もあるし、なんとか連休中に体調を戻したいところです。昨日は視察委員会発行の「子安町通信」10号を受け取りました。昨年の「一斉アンケート」を踏まえ、医療刑所長宛に冬期における生活環境改善の意見とそれに対する所長の回答の紹介が載っていたものです。冬期暖房の時間5分延長したが、さらなる努力を求めたことに回答。「就業受刑者の就業時間を踏まえる」とこれ以上の延長は困難と思料する」視察委「夜間のスチーム暖房の時間を5分長くすることが、どのように被収容者の日課に影響があるか理解できない」と補足している。その他「冬の配食を温める為、汁物の汁だけでもやかんで温めて注ぐなど、手間・費用かけずに冬の間だけでも実践してみてもどうか」と（回答は「今後検討して参りたい」）防寒衣類の購入がどう可能になったか？などの質問。今年もまた被収容者全員、職員全員を対象としたアンケートを秋に実施するとの

協力要請でした。視察委の意見は少しずつでも改善を実現しているようです。

10月8日 この日はいつも晴天！ 45年も前なのですね。あの10・8は。高速道路を逆走し、力の限り「佐藤訪ベト阻止！」と走り、橋を挟んで攻防戦を激しく闘い……なんとかこの社会を変えたい！と願った心情は「脱原発」の今をつながっています。人々の多様な意志と力が変革を今前に育てていること、かつてを教訓にしつつ連帯。夕方、ノーベル賞受賞者山中伸弥教授。「偉大な発見」が企業の独占や特許に囲こまれず、必要な人の命を救うものになるのか、これから「再生医療」は多くの問題が解決されねばならない気がします。

10月9日 今日は嬉しい日。副作用ももう大丈夫です。午前中9時過ぎにMさんとの面会が叶いました！ 「いつも手紙が来ていること」などを考慮し友好を維持するものとして今回だけ特別として許可が下りました。奈良からわざわざ面会に来てくださったこと、またこの間手紙でやりとりしていることも考慮されたようです。面会室に入ると元気な笑顔のMさんが入室！ 全然年とらず若々しい姿です。「話すことは事件のことなどダメです」と言われていましたが、過去ではなく現在、これからのこと話しました。高田での脱原発、宇治のTさん訪ねてみて、みどりの党の集いに行つて、I子さんとも初の宇治の寺の観光もしたことなど、たくさんの話しました。ちょうどいただいた誕生プレゼントのお礼とI子さんへのお礼の伝言もHさんTさんへの感謝も伝えることができました。東拘の時には「さわさわ」のみんなで「今日の日、さよなら」でしたが、今回はMさんから先に届いていた「ローレライ」とその替え歌の「地元のうた」。「あと5分」と言われてあわてて合唱。あっという間でした。「何分たったんですか？」とMさん30分と言われてびっくりしてました。もちろん家族のこと、私の病状、元気な話もして、おたがいの若さをほめあって（！）名残惜しく別れました。

戻ったらちょうど休み中の速達、Mさんのもありましたが話はずんでいました。Mクンからはバースディ祝いの元気な地元での政治や選挙の様子、がんばりますね！ それにYさんありがとうございます。またカルロスからのハッピーバースディのお便りとカード、いつも誕

生日に祝ってくれてありがとうございます。返事も書けず失礼したままですが、日本で今映画やっていると伝えてあげたい。メイは「後味の悪い映画。革命する人々の人間性をおとしめているような内容」と批判的でしたけど。またK子さん祝バースディありがとうございます！ かわいい絵も！ 「オリーブの会」での太田昌国さんの「教育・学ぶ」という9・29の話。人間は対話によっておたがいに学び成長するという話になるほど！ だったのね。この手紙の対話もね！ Kさん庭のすずきと水引草の活け花いいですね。9月28日のバースディプレゼントです。ありがとうございます。10・20同志社学生運動史刊行の集いに行くのね！ Tさん、それにNによろしく！ Nの多分実務能力が大いに力になったはずです。ご主人Kさんは亡くなられたけれど、この本のきっかけになっていますよ。よい集いを！ 連帯のあいさつを送ります。

10月11日 どの顔も幼なに還る運動会

声を涵らして応援尽きぬ

今日は運動会です。昨日の予報では昨夜から雨で今日も雨らしいとのことでしたが、昨日「運動会中止」の知らせなく、入場門が取り付けられていました。1年でみんなが一番楽しみな運動会。起床時から秋日和、運動会日和の陽がさしています。窓から運動場を見ると、午前中に万国旗・来賓本部テントが張られ、運動会会場らしくどンドン華やかになっていきます。去年までは見学者も女区全員が真紅のトレーニングウェアで参加でしたが、今年は作業着（グレーの官服）にカーディガン。出場者は補助係の懲役の方4人で、今年は見学者は出席ありません。12時前に号令のもと運動場へ。すでに男性の赤組、白組、緑組に分かれたグループ、患者見学の人たちなど席に着いていて、女区が加わって、あいさつのもと昼食。チキントマトソース・薩摩芋・甘煮に黄桃の缶詰とふりかけご飯に伊藤園のお茶。突然に太陽ざんざんと真夏の照りで、青空の下暑い暑いと言いつつお弁当を楽しみました。食後木陰にビニールシートをずらして待機。所長以下来賓の方々10余名が入ってこられて運動会の始まりです。いつも法会にみえる有髪の元サラリーマンと話しておられた僧侶も作業衣で来賓の中にいました。所長の開会あいさつ後、去年の優勝旗返還などを経て、競技がはじまりました。女区のボール競技や男子の徒競走、その後はチーム競技、障害物競走やペットボトル

## オリーブの囀 第114号

に水をどちらが早く一杯に入れるかや玉入れ競技など盛りたくさん。みんなが楽しいのは応援合戦です。今年にはなにも装飾品なく、工夫した応援(自分たち以外のチームを集団隊形で応援するもの)「フレイフレー女区!」のまじめな応援から笑わせるものからいろいろです。来賓の競技参加もあり最後はリレーです。白組が圧勝しました。白組は走りも笑わせる応援もなかなかのもの。白組は炊事場担当している懲役の人たちです。女区は負けそうな人やチームにリレーでも熱心に応援し、配られたお菓子(小さなドーナツ、パームボール、ロッテチョコパイなどの甘いものばかり)を食べながら、みんな楽しそう。今年は去年みたいに女区の前で手を振りすぎてこける人はいませんでした。あつという間の15:00で運動会は終了。楽しむ私たちですが準備する方々は天候にも気をもみながら苦労と思います。「どの顔も幼にかえる運動会」そんな一句が零れます。男女が共に参加する運動会って八王子だけかもしれません。

本や雑誌資料ありがとうございます。「モンテクリスト伯」読みたかったものも感謝!「選沢」「紙の爆弾」「人民新聞」「独房通信」その他脱原発のお便りも資料も地域ビラもうれしい。

10月12日 秋晴れの気持のよい日です。午後は大谷弁護士が面会に来てくださいました。そして「施設の側から指名医を提起した画期的なこと」とおしゃり、歯科医治療について話をしました。でも指名医制度では保険が適用されないと聞いて驚きました。費用の自己負担は当然として、国民健康保険の3割負担で考えていたのに。これでは「国民皆保険」と言いつつ、獄中者を差別するもので、膨大な負担を強いています。それでも歯科医のメドを立ててくださっており、これから手続など進める予定です。また消化管ガンの指名医も今後のことを考えて探してもらえようと思いました。八王子にいる限りは問題ないのですが、移監になることを見据え、八王子にいる間に主治医と病状について話してもらいたいと思っています。

大谷先生はお元気で、いろいろ話したいと思ったのに30分の特別面会で、指名医のことも大急ぎで話して時間切れ! ありがとうございます。

夕方、資料や雑誌、ネットの中東記事ありがとうございます。それにクラケンのお便りありがとうございます。筆不精のクラケンの長いお便り! 明大旧友の「関西墓参ツ

アー」をやったのですね。志賀Mさん、京都は明大じゃないけど同志社のFさん、奈良はMさん。みんないい仲間でしたね。学館でワイワイやった10人の参加者の顔ぶれもなつかしい!! Tさんが早朝学館で歌ったのは「旅人よ」。「風にふるえる緑の草原〜♪」の歌でしたよ。「TSはアパレル関係会社を経営関西方面で30数社の店舗を傘下に事業展開、TSたもんです」とクラケン。TS明るかったもね。楽しい人。そういえばアメリカ村つくったのTSだと誰か言ってたな。みんなによろしくね!! S君が亡くなったなんて。「グズラ」とニックネーム、赤軍派でモップルか。ガサ入れで立ち合ってた写真見たのが最後。でもグズラも現思研の柱だったのに……。パチンコ強くてデモで逮捕者大勢の時は、「グズラ! 行こう!」って、私がお金を出してグズラの腕前に投資して箱一杯二杯の玉を出して、それでタオル、石鹸、下着、歯ブラシなど大量に替えて、一緒に小菅東拘に通ってたな。あれは68年から69年。純朴で良心の人、グズラに合掌。10月6日の土曜会の中澤さん来てくれたのね。中澤さんの話中心に60年代のことに学費値上げ反対闘争から68年、69年東大闘争くらいまでの「明大学生運動史」の本、出版再挑戦してほしいってR介に言っておいてね。

10月14日 昨日も今日も秋空の爽やかな週末。こんな日は父にねだって一緒に馬事公苑に行ったり、椎の実や栗拾いをしたものです。今日の朝刊に、メイの本『「アラブの春」の正体』の広告が出ています。「欧米とメディアに踊らされた民主化革命」というサブタイトル。メイは6月にオファーを受けて、タイトルは決まっていますが、近頃ベストセラー『戦後史の正体』(8月発行)の二番煎じみたいな格好のタイトルになってしまいましたね。私も早く読んでみたいです。

10月15日 うろこ雲一杯の朝。今日は布団干しになり、ふわりとした布団が戻ってきました。Nさんありがとうございます。たくさん資料受け取りました。それに関西の脱原発の写真付きのお便り。10/5の関電前行動では一人逮捕され、彼もすぐ傍で写真を撮ったとのこと。「府警私服がやくざのようにいちやもんつけて口論し、止めようとする人の中でわざと転んで、公務執行妨害を演出して強引に逮捕。このシーンは多くの人々が写真や動画を撮ったので全国にすぐさま流れました。

動画を見ても暴行の場面もなく、ただしゃにむに逮捕しようとした警察の一方的な行動が映っているだけ。先週くらいまで遠巻きにしていた警察も今回は挑発です」とのこと。圧倒的多数の人々の脱原発行動の立ちあがりと監視が、挑発や弾圧を押しとどめる力ですね。健闘に連帯! 「10・21京都」に「11・11東京」もまた元気に行動してね!

デジカメ歌人「寒露」のお便りから一首「瓶のバラ身を縮ませて憎しみを棘の教だけ抱きて枯れる」Tさんは「塩」五百号記念句会出席の様子をありがとうございます。「生きてある塩ある限り彼岸花」。この季節歌や句がほしくなりますね。柳澤桂子歌集にこんな一首があります。「朝露のきらきら光る蜘蛛の巣に白萩の花一つ捕らわる」。ちょうど私の窓の先、女郎ぐもより細長いので足長ぐもでしょうか、みごとな巣を張りました。でも獲物はさせん。「銀の巣にひねもす揺られ待ちぼうけ足長蜘蛛は開店休業」と私も詠んだところでしたよ。

10月16日 朝採血。秋晴れ。資料・本・手紙たくさん受け取りました。クラケンの送ってくれた中澤さん(明大学学費値上げ反対闘争の時の中執委員長で、北多摩生協を再建し、パルスシステムなどつくってきた。現在ガン闘病中)の文いいですね。誠実で投げ出さない責任感の人。文章からも昔の人柄をうかがえます。「東京人」「逃亡者」他いろいろ機関紙資料。またMさんKさんMさんのお便りありがとうございます。

10月17日 秋晴れの土と草と空の匂いの運動場で、久しぶりにアレーナ2周(といっても1周100m)。息切れしつつあとはウォーキング。同年配の人に「やめとき! こけたら運動場出るの不許可になるで。×さんそうやったよ!」とアドバイスを受けつつ、「大丈夫!」と言ったら「こける前、みんなそない言うんや」とニコニコ。ワイワイ言ってるうちに30分終了。桜の落葉、とんぼももう一匹のみ旋回。秋が深くなっています。

午後、主治医診察。「血液検査の結果、CEAは3.4、CA19-9は11.0、白血球も正常。肝機能は少し数値が悪いけど抗ガン剤の副作用も考えられるので様子を見ましょう」とのこと。腫瘍マーカー正常値前回4.6のCEAが3.4です。「補助治療も効いているでしょう。基本は手術で摘出したこと。CEA5.0以下が正常値なので4.6でも3.4でも大差ないですよ」と言わ



れつつ、初の3.4はうれしい。また腕の上がらなかった関節周囲炎もずいぶんよくなってるので、朝夕の鎮痛剤は辞退しました。明日で抗ガン剤服用第3クールも終了です。これで補助治療は終了、様子を見てポリープの内視鏡による摘出です。

「オリーブ通信」他届きました。竜子さん「オリーブの樹」の表紙のカラーの絵ありがとうございます! のうぜんかずら、8頁の絵わかりましたよ! でもどうしてうわつと咲いてないのかな? と思ったのですが、そうですか、残り花一つを見つけたのですね。風情がある風に揺れる一輪を浮かべつつ感謝。Mさんありがとうございます!

10月19日 若ちゃん、突然の死。まだ信じられません。どんな逆境でも生きのびてきたのに。共に闘い過ごしたジェラシの撮影が浮かびます。本音でパレスチナの戦友と語り会いましたね。私も再会を期していたのに無念でなりません。友人からも若ちゃんのこと伝えてくれました。ありがとうございます。私の側からは今日(金)を経て、(火)しか投函日がないので、19日朝刊に載っている通夜にも告別式にも甲電も届かないでしょう。夕方メイの本『「アラブの春」の正体』届きました。アラブのことを知らない人にも読みやすい内容だと思います。日本語のぎこちないところ若干ありますが、いい本でしょう。編集ミス1ヵ所あったので機会があったら伝えたい。一気に読んでしまいました。

10月20日 秋日和。今日は丸岡さんバースデイ、62歳です。アラブでは時間の余裕のある時は誕生会も飲んだり歌ったり演説したりとにぎやかでした。飲酒を慎んでいた丸さんも、日本赤軍結成のあとからは勧め上手の酒の楽しい人でした。もう一人、私と気の合う仲間も同じ日バースデイ。彼女にも丸さんにもハ

ッピーパースディ乾杯！ それにしても一緒に何回もそんな乾杯の席に居合わせた若ちゃんの訃報は、なんともくやしい。「最後はやっぱりパレスチナを撮る」って言ってたよね……。

10月22日 ネットに出ていると、『「アラブの春」の正体』の書評など送ってくれました。「目からうろこ！」など、リビアのことなどおおむね好評。リビアではカダフィを殺した「英雄」が殺され、さらにその報復の砲撃で住民たちの死傷者が出ているとの記事。10月20日がちょうどカダフィ殺害から1年のために日本でも記事になっています。9・11のベンガジ米領事館殺害とその仕返し“過激派”事務所襲撃など戦乱です。直接リビア親米派を指示していた米国防務省も一時ひきあげたとか。ちょうどメイの本のリビアの記述は役に立ちますね。

10月23日 ベランダで運動していたら小雨が降ってきました。今日は起床前から太陽キラキラと雨と風が同時に騒ぐ不思議な天候。新聞が届いて大荒れ予報と知りましたが、八王子は曇り小雨、太陽とくりかえしただけです。夕方、若ちゃんの様子を知らせてくれる17日直直前の足立レポートを友人が送ってくれました。「負傷は脳挫傷、脳内出血、脊髄骨折、筋肉出血、骨盤破裂と出血、それから小さな部位の内出血が止まらない最悪のもの。事故から夜10時過ぎ病院に運び込まれるまで2時間は意識があり、事務所に切りもりする三女が駆けつけて一時間話してきた」と書かれています。「5日目の今日まで、緊急集中治療室でがんばったが、血圧40～50血中酸素も測定できなくなり、医師団は最終段階を判断した」とのこと。足立さんの無念の想いが伝わってくる。どんな状況でタクシーにはねられたのだろう。生きる執念の人一倍強い若ちゃんをしても助からなかった……。それでも5日間の間どんな時空を辿ったのだろう。パレスチナを、そして故郷の福島を、そして、みんなの胸の中に若ちゃんは変わらずにいます。発信の手紙に、「間に合えば弔電を！」と託しました。

10月24日 もう秋が満ちて今日は寒いくらい。八王寺の気温は20～8℃です。グラウンドに出ると雲一つない青く高い空。なぜかしおからとんぼが低く飛んでいます。クローバーの花が香り咲き、紋白蝶もし

じみ蝶もふわふわつとのどかな秋。桜の葉の色づいた落葉を拾って秋をかいでみました。今日は避難訓練日。年1回。放送で指示され、ズキンを被ってベッドの下に待機1分。夕方青木理さんの本5冊届きました。『日本の公安警察』『国策捜査』『絞首刑』など。読書の秋楽しい読書も手元にありニコニコです。また今日、視察委員会のアンケートが配られました。どのくらいここに居るのか？とか、治療に苦情はないかなどのアンケートに拍子抜けでした。処遇などは今回のアンケートにはありませんでした。

10月25日 「フォーリンアフェアーズ」には「イランでなく、イスラエルに対するレッドラインを設定せよ——アメリカのネタニヤフ問題」という論文が載っています。アメリカにまで来て、イランに対するレッドラインを示すことを拒否したオバマ政権に怒りをくり返すネタニヤフにこそ「これまであらゆる面でイスラエルを支援してきたアメリカをイランとの戦争に巻き込もうとしている。現情ではレッドラインを定義して適用するとすれば、それはイランに対してでなく、イスラエルの指導者達に対してだろう。イスラエルはアメリカの国内政治に干渉すべきではないし、不必要な戦争にアメリカを引きずり込むのはやめるべきだ」と「レッドラインをつきつけよ」という文です。イスラエルの一部やネオコンにはシリア内戦をレバノン、イランまで拡大させて、イスラエルの安定を夢想する危険分子がいるからです。国境を越えた戦乱は住民たちの犠牲ばかりを広げています。

点呼後ちょうど「歯科指名医の承諾書」が弁護士から届きました。感謝。

Nありがとうございます。10・20出版報告会も盛大、プリントの良いところですね。みんなが（できるまでは大論争喧嘩しても）何事もなかったように労をねぎらいあったなんて！ 本はまだですが『アジビラは語る——60年代同志社学生運動史』というタイトル。読んだら我が「土曜会」にも読んでもらって明大もきちんと2・2協定も教訓に、64年くらいからの作るように、またうるさく言おうかな。本当にNの力が大きかったと思ってます。おめでとう、3年越しですね！ TさんもK夫人も10・20が目に見えびます。Mさん10・20のこと知らせてくれてありがとう。

10月26日 今日は姉とメイが面会に来そうだと、

メイの著書の校正頁をメモしていました。午後ちょうど1時半前、「面会！」との声。ノート、メイの本も持って面会室へ行くと、「久しぶり！」と姉と義姉です。メイは多忙で来られなかったとのこと。姉も8月以来です。校正のことなどは頼もうとしたのですが、「普通のおばさんに複雑なことは頼まないで！」とニコニコ断られてしまいました。頼み事多くてごめん。それから前便で頼んだ若松さんの告別式に弔電は先輩が打ってくれたと姉から聞きました。義姉がちょうど清水房雄歌集『残余小吟』を送ってくれていたのが届いたばかりで、お礼を言うと、義姉と97歳の歌人清水房雄さんと撮った写真を見せてくれて「ね、お父さんに似てるでしょ」と白髪の大きな目の歌人を示しています。「あなたの歌を『柔軟で若々しい』とほめていましたよ」と伝えてくれました。感謝。「私も本読んだらお礼の感想を一筆します」と義姉にお礼。そんな話をしているうちにたちまちの30分。楽しい面会は楽しく別れました。

そのままコーラスへ合流。「あと30分あるから行きますよ」と言うので駆けつけました。元気な先生と15～16人くらいの生徒たちで、ちょうど「郷愁」ふけゆく秋の夜と歌っているところでした。先生はニコニコして、「あ、遅れて来たのね！ じゃあバツで一人で歌って！」とニコリ入ってきた私を指名。すると「私も助けて歌いまーす！」と若い人が手をあげました。「大丈夫、彼女は一人で歌う気よ！」と伴奏。出ないソプラノ裏声で高い音のまま「ふーけゆくー」と歌って楽しめました。それから「小さい秋みつけた」と「花は咲く」を合唱しつつ80歳の先生の巧みな話にうなずいたり大笑いしてもう時間「あら15分時間オーバー！」と言いながらももう終り。また来月！ 先生にお礼を言って、みなやはり声を張り上げると元気で生き生きしています。

夕方にはNの送ってくれた『アジビラは語る——60年代同志社学生運動史』届きました。よくコンパクトに時代をまとめたなあと感心。「座談会」もおもしろいです。もっと長く詳しくしてもよかったです。旧友たちの様子もわかりました。あ！あの時代のNケン！と座談会で発見。私から「1部学友会（昼間部）の自分に2部学友会（夜間部）と一緒にやってくれと言われやっていた」と当時のことが出ていて、あ！ということも多々。Mさんのことは大きくて深く、本当は、党派はネガティブに作用してしまった……（7・

6のあと拉致された中大から塩見さんと脱走しようとして校舎からロープで降りる際、すでにやられて腕を骨折していたので力が入らず転落。その後死亡。）反省多き教訓の書。またゆっくり読み返します。

今日の新聞の一面で、石原都知事が辞任し新党づくりへ。どれもこれも右の風ばかり。

10月29日 週末の曇り、雨の肌寒さとうって変わって起床時から陽がさんさんです。午前中に大谷弁護士が31日面会に来てくださるとの連絡の封書。デジカメ歌人の霜降の便り。自宅の庭の「花と蝶」のスナップ。花は姫ツルソバ、可憐で美しい。「冬開くショウリョウバッタふらふらと陽を吸いながら川横切り飛ぶ」の一首。目に浮かびます。10・20と10・21同志社の集りに行かれたでしょう？ みんなとワイワイやった姿を想像しています。Uさん10・21の資料はまだ未入手です。若ちゃんの葬儀は800人くらいの方がみえたのですね。旧友たちもたくさん参列していたのですね。もちろんメイも居たとのこと。メイの小さい頃からの数少ない日本から来るオジさんで、メイ帰国のアレンジは「まかしとけ！」とペイルートに飛んで弁護士さんと帰国を実現してくれたメイのおとうちゃん一人でしたから。合掌。夕方、Mさんからの便り。お便りを読むと力が湧きます。姉の便りには、姉が八王子駅ホームで、松岡正剛の『「アラブの春」の正体』のネットのプリントアウトを読んでいたら、「知らない人から『重信さんはここ八王子に居るんですね。もうお元気になられたかどうか知っていますか？』と。私たちくらいの年輩の紳士でした。みんながあなたの健康を気にかけていますよ」と、そんなうれしいエピソードも添えられていました。今日は採血しました。白血球のチェックです。

10月31日 今日は大谷弁護士が面会くださいました。指名医に関する事など。再審のことも話しかったのですが、時間切れでした。ご多忙の中短い接見に遠出してくださってありがとうございます。面会后、主治医の診察。血液検査の結果。白血球も正常範囲だし、抗ガン剤の副作用か肝機能が少し悪いがあとはOK。これで2009年2月から始まった種々の抗ガン剤治療は不要になりました。あと、大腸のポリープ摘出したら治療はないとのこと。再発の危険はあるけれど当面は大丈夫でしょう。

若ちゃんに関してのお便り友人たちやいろいろの方から届いています。足立さんいろいろ頼みます。そして若ちゃんの分も元気でがんばってほしい。生きててよ!

11月1日 早くも11月です。私も次の準備をしなければと思いつつもうすぐ師走。賀状ももう発売ですね。資料本雑誌などありがとうございます。読みたい本が今手元にいっぱい。でも私物管理のスペースに分量オーバーで、急いで読んでいます。また「キタコブシ」や「支援連ニュース」、10・21の集会の時配られたピラや写真もありがとうございます。『ロゼッタストーン解説』も面白そう。『モンテクリスト伯』はもう読みました。少女時代に読んだのを思い返しつつ、ずいぶん生死の考えやレトリックがあるのに昔は「正義」をテーマにしてしか読めてないと思いつつ楽しみました。

11月2日 Yさん「土曜会報告」ありがとうございます。学費闘争の時代の中澤さんの報告読みつつ、え・中執(昼間部)ってそんな具合だったのと思うこと多々です。ブント独立社学同を代表していた明大のリーダーが学費闘争の実相の全体を掴んでいなかったなんてびっくり。党派はとくにあの時代できたばかりの三派全学連のヘゲモニー争いに痛みもなく、自治会を引き回していたのか……と。語り合うことで、全体像が少しずつ前向きな教訓になることを! みないい会になったと記念写真もいいものです。Yさんありがとうございます! 久しぶりOさん! 職場を変えた事情よくわかりました。志あって公正やヒューマニズムや理念をもって介護施設を開く人ばかりではないですものね。理念の合うところで働き甲斐を求めて地域と共にの心意気に連帯! 健闘祈ります。Kちゃんはまだ来年小学校 孫っいいもんですね。

11月5日 どんより寒く曇。11月に入ったら、もう冬の気配の八王子です。友人からの速達や休み中の便り。それに宮崎先生本ありがとうございます。読書の秋! 楽しめます。夕方Tさんありがとうございます。もうNから『アジピラは語る』届いています。10・21同志社会学会会の旗ひるがえったのですね。Tさんの若者のようなパトと八面六臂の働きはいろんな人が伝えてくれますよ。お便りやピラ、現場の声は抗ガン剤並みに私にはよく効きます。Tさん「オリーブの樹」に「さ

わさわページ」登場いいですね。「オリーブの樹」の編集室も場を作ってくれてありがとう! またT子のお便りと三首なかなかいいですよ。松下竜一先生が添削してO印だったという一首好きです。“しばらくはここがわが城いとおしく掃き清めては花を飾りぬ”歌を詠む人が増えてますね。楽しいお便りありがとうございます。娘たちやKクンらによろしく。

11月7日 立冬ですが今日は秋晴れ。グラウンドに出て30分の体操。ラジオ体操のあとは自由行動です。午後は主治医の診察。体調を聞かれて、午前中はトラック一周走ったり元気です。でももう抗ガン剤治療は終了したのに、手足の末梢神経障害のしびれや涙目など消えていないので、冬の間も副作用対策を継続させてほしいと伝えました。(カイロ1日1個、1ヵ月30個、自弁購入許可ですが、1日2個以内に増やしてもらい、1回に配られるお茶300ccを500ccに増量してもらっている継続、ゴム手袋の使用許可してもらっている。)主治医は「ずいぶん長い間、抗ガン剤治療を行ってきたので、副作用も長く続くだろうし、今からの冬にはまだ必要でしょう。10月に抗ガン剤治療を終えたばかりですから」と許可してくれました。そして「ポリープ摘出手術については外科とまだスケジュール調整中だが、手術の承諾書に署名指印をしておいてください」とのことで、署名指印しました。内視鏡手術なのでたいしたものではありませんが、摘出手術前の腸の洗浄の方がいつも大変です。夕方弁護士より書留便で指名医になる人の履歴書と歯科医師免許書コピーが届きました。これは明日、保健課に提出するものです。

11月8日 今日は晴天。2000年11月8日の逮捕から12年目です。

朝食後、係の人から『来庁調べ』があるとのことで、内容は後に処遇首席から伝えられるが、すぐにベランダの運動の準備をしてください。9時には行けるように」とのことで、何かな……。指名医のことかな?と考えつつ急いで歯みがきをしてベランダ運動。運動はパジャマですが(患者なので病棟にいる時はパジャマ。運動場や行事の時には「作業着」というユニホームです。)作業着に着替える時間も必要だし……と、1100歩ウォーキングして「もういいです」と早めに切りあげました。あわてて着替えたり準備。

9時半近く処遇がみえて、「来庁調べについてですが、警察庁、警視庁の方とフランスの予審判事の方がみえています。大勢みえてますよ。フランスにおける公判のことで尋問したいので協力してほしいとのこと。この尋問は参考人としての証言で、あなたを訴追するか、そういうことではありません」との主旨を説明されました。あれ、カルロスの公判が続いているので、そのことで協力を求めているのでしょうか。カルロスは私の公判でも証人として、書面で私の冤罪を訴えてくれました。そのことを首席にも話し、そのことでしょうかから、私から何も話すことはないのでは会う必要はないと伝えました。会って、何のためか事情を聞いてから拒否しても良いと首席。「首席から用件は聞けないのですよね?」と私が聞くと、「私たちが取りついたり、内容にタッチすることはできない」とのことでした。もしカルロス側が望むなら、カルロスの弁護人と私の弁護人は、私の公判の時に出会っているし、私の弁護人から事前に何か言ってくるはずだなあと思いながら、「フランスの予審判事には何も話すことはないし、協力することはできません。ご足労いただいたのに申し訳ないですが、お会いしないので、その旨よろしくお伝えください」と首席に話しました。拒否するとしても面接はするだろうと思っておられたようで、首席もちょっと驚いた顔をしましたが、「それはあなたの決めることです。わかりました。そう伝えます」と言って出ていかれ、後に係の人が、「あの件はおわりました」と伝えてくれました。逮捕12年目の日に、そんなことがあるもんだな……と思いました。

星の膳にみかんが付きました。秋になって初めてで

す。皮をむきながら、みかんと栗、それにのり巻きの昼食で、ござの上に座って食べた運動会の小学校時代を、匂いが呼び出してくれました。

宮崎先生お便りありがとうございます。米寿ですね。先生の元気見習おうとします! MさんKさんありがとうございます。遠野に行かれたのね。語り部の話は心に響いたことでしょう。寒くなりましたが、60代70代80代の友人たち、身体をよいくいたわりつつご活躍を。

12年前の11月8日、逮捕のあの時、無念と迷惑をかけるであろう人々のことで頭はハレツしそうでした。それなのに一方で「よし……前向きに本名から再出発できる!」という力がわくわくと湧いてきたこと、大阪から東京へと連行される新幹線の窓から見える稲束を積んだのどかな陽のあふれる日本を昨日のように思い返します。みんなの支援で公判の一方的な政治的報復に立ち向かうことができ、また今もみんなに励まされ生きていること、逮捕でもたらした数々の犠牲へのお詫びと共に感謝ばかりです。

新年まで次の「オリーブの樹」の発行はありませんが、今年もありがとうございます。どうか皆さま、健康で前向きに新しい年を迎えてください。私も共に。忘年会への「乾杯!」と「よいお年を!」をこの機会に伝えてご挨拶とします。

\*\*\*\*\*

重信さんは2010年8月16日の刑確定後は通信回数枚数が制限され、(月5通、1通便箋7枚)、おにも親族と弁護士宛に通信されています。この「独居より」はその通信の「日誌」部分を編集室が抄出したものです。

## アラブ物語(21)

### ステーションとしての党へ—ヨーロッパを戦場とした誤り(3)

重信 房子

#### 6. ホンヤク作戦調査での矛盾

74年6月、アデンの訓練の一つのサイクルが終了したのちに、参加者は各々に持ち場に戻っていった。VZ58の人らは、ひきつづいて訓練とニザールを待つアデンにいた。

6月から7月初めにかけて、WとPはウィーンに向かうことになった。バグダッドに来ていたJがウィーンに行くための意志一致を私を介して行なった。欧州側のWら受け入れの準備は整っているとのことだった。

Pは旅なれていたし、Wには初めての欧州旅行だったが、こまかいところに気のつくWが常駐調査をすれば、Jを中心とした在欧の調査も目鼻がつくはずであった。ウィーンではSとGがWらを迎えた。私がパリ会議で聞いていた話では、Iがキャップで迎えることになっていたが、Iは来ていなかった。代わりにSが来たようだった。

Wは欧州まで来て、出迎えのIが来るはずと私から聞いていたのに来ず、また、ターゲットも私から聞いて



ていたのちがうというので、まず面食らった。

あとでわかるのだが、パリ会議が終わったあと、私も中東に戻り、Jも日本に帰国して、居なくなったあとだと思うが、Iが方針を変えてしまった。

Wが私から聞いていたターゲットのM商社が第1の攻撃対象だったが、それがまずなくなっていた。他をはじめから捜すような話に変更になっていたのを、WとPはウィーンに着いてすぐに聞いた。パリで別れた時には、ターゲットはM商社を第一にして、Jが作戦共闘者たちと作戦条件を整えることになっていたのだが。

欧州に着いたWとPの2人はS、Gと共にレンタカーでスイスからドイツに入り、調査旅行を続けることになった。アデンの軍事訓練からすでに戻っていたHもドイツの調査に加わった。Wがケルンに拠点をかまえ、Pはデュッセルドルフに住み、調査がはじまった。街はちょうどワールドカップの決勝戦で西ドイツとオランダが闘うというので、国境検査はないも同然で、当初はやれそうな気分で進めたという。

こうした時、Wらは、パリ会議で決めた私から聞いていたターゲットが変更になっている原因をHらから聞くことになった。Sや他の人々が、Iにヨーロッパで作戦を行うのは無責任ではないのか？何かあったら在欧の仲間たちに責任がとれるのか？という疑義が出されたい。

そのうえに、Hの話では、在欧の間でも作戦について、金は必要だが、自分たちがバレたらどうするのかと批判があり、ターゲットの変更や在欧の人材不参加を話し合ったという。Hの参加も、後でばれとまずいので、加わらないように検討したようだった。作戦参加のつもりだったHはIに腹をたてていた。ベルリン在住のHらはこれまでの活動のいきさつからもIら

に批判的であった。作戦をやるにはあまりに話がバラバラであった。まずターゲットを決めなければならない。そのターゲットを隠れ家に連れて行くという条件や方法、どれも不確定要素ばかりであった。何よりも一緒にやるはずの在欧の仲間の合意が十分でないし、ターゲットもこれからまた新しく選ぶという状態だった。そこで、WはHと相談して、いったんベイルートに戻って、話がちがっていることを重信に話して、今後の対策を決めることにした。

WはHやPらと話し合っ、ベイルート行きを決めた。そして、自分がまたドイツ戻ってくるからと言い、アジトもそのままにベイルートに戻ることにした。どうせ戻るなら、アラブに持って行ってほしいものがパリにあるので、それを運んでほしいと在欧の仲間に言われて、Wはパリに立ち寄った。そこで、Wは偽の100ドル札100枚をパリで受取って持ち帰ることになった。これは後に様々な問題を引き起こす種になってしまったが、もちろんWは当時は知らない。これはJから在欧の仲間に中東に送るよう指示されていたものだった。

これは後にわかるのだが、Jはアシエングループにホンヤク作戦の部分を買ってもらう算段をしていた。アシエングループはちょうどアウトサイドワークに頼んで、中東地域で偽ドルを大量にばらまいて資金をつくらうと計画していた。この偽ドルはアシエンからJが受け取っていたものであった。

アシエングループは、欧州よりもベイルートなどは両替商のいるフリーマーケットだから、やりやすいと考えて託したようだが、PFLPはそうしたことはやらない。麻薬や偽札など非道徳なことは禁止されている。また、かえってベイルートでは、偽もの見分けに厳しいのだった。それらはアシエングループも私たちも未経験であったし、在欧の仲間も、とにかくアウトサイドワークに相談してみようと思いついたようだった。それらをWは受け取ってベイルートに戻ることになった。

これが後で問題を作ることになった。なぜなら、このアシエングループからの要請は、「できない場合には、7月25日までに偽ドルを返却してくれ」とのことだった。アシエンは私たちに頼んだのみならず、もっと大掛かりに他の組織などと一斉にやろうとしていたためだろう。やらない場合はその前までに返却しなければならぬ。それならベイルートに持ち帰っても、押

し詰まっいて、換金の調査をやる条件はもともと成立しない。持ち帰るべきではないものだ。かえって取り扱いが差し迫っている返却期限に制約される。1週間もないのだ。Wは、アラブサイドと在欧の仲間の約束ごとのだろうと、深く考えずに預かった。国内から調達されたY用の身長に合わせた本物の「F・Y名義」旅券などと一緒に、Wは偽ドルを持ち帰ってきた。

### 7、ベイルートでの再編会議—作戦再考

ベイルートでは、ちょうど予定していた組織づくりのための会議にむけた準備がはじまっていたらしい。夏に5者は合流して、会議で統一した組織を立ち上げようとしていた。5者とは、すでに述べたが、VZ58と足立さんらのグループ、それに在欧のグループに在アラブの軍事部署と非軍事部署のPFLPボランティアたちである。

しかし、VZ58にはちょうど問題が起こってしまった。VZ58の中で、T、奥平さんを送り出したあとに、組織内での討議がつづいていたらしい。訓練を終えて帰る予定のTに、今戻らずにアラブにそのまま留まってほしいということと、夏の代表派遣参加は無理という組織事情が伝えられてきた。国内のVZ58として、どう政治一致しながら、組織的に闘うか武装闘争をどう位置づけるかで、論議が続いたようだった。

また、在アラブの軍事的部署のキャップであったニザールも不在であったので、代行としてYがこの会議に加わることにしていた。7月にはPFLPの協力をえて、やっと足立さんがレバノンに入国することができた。そして、これまでの活動などについて話し合い、Jが来たところで夏の会議を始めようとしていた。

Jは欧州でホンヤク作戦の協議や他組織と交渉したあと日本に帰国していた。そして、7月中旬にはベイルートの会議に日本からダマスカス経由で到着する予定もすでに確認されていた。

こうした会議準備をしていたところに、予定外にWがひょっこり戻ってきた。私とYでWの話を聞くことにした。しかも偽ドルをパリから預かってきたという。

「何でそんなものを預かってきたのか？！なぜ断らなかったのか？！」まずこのことで、YがWを批判した。Wはパリからアラブへ持ち帰る約束のものと同然のように受け取ってきたらしかった。しかし、この偽ドルの使用を行なわないのであれば、25日までにアシ

エングループに返却せよという条件つきだった。もう一週間もなかった。そんな条件で受け取ってきたのは、確かにまずい。Jがすぐ来る予定だったのでまずJから話を聞いて対策を立てることにした。そしてホンヤク作戦について、Wの報告を聞いた。

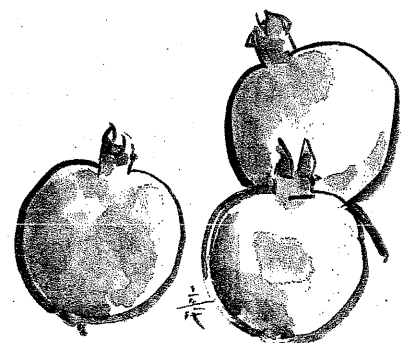
まず私がWにパリの会議の報告として言った話と違っていること、ターゲットは変更になりIは出てこないし、在欧グループの中でも、作戦に加わるのはやめるべきという意見がある。作戦後のアラブ赤軍の展望はどうなっているのか、などと出されたという。Hは作戦をやりたいが、どうもバラバラで、今の状況では進めようがない、と、Wは説明した。そして、どうしようか？という。

しかし、Iに腹を立てるのは間違いである。もともと安易なこうしたプロジェクトに問題があった。また、パリ会議できちんと話すべきことが話されず、やる気と財源の必要性の側から、なんとかやりとげようと非科学的に突き進んだ。ヨーロッパを戦場にしている誤りに無自覚であった。

Wの現状報告を受けて、この現実在に在欧の人脈を通して再編しながら、なんとかやれる修正案をJと話し合った。Jしか詳しい共闘関係はわからない。話し合いつつ、それらを新しい方針として再編しながら、ホンヤク作戦を続行することになった。この時、私たちが頭を痛めたのは、Wの持ち帰ってしまったニセ札のために時間が制約されたことであつた。予定の夏の会議を中断し、YはPFLPのレボとしてドルを返しに行くことやアウトサイドワークの手紙を頼まれ、自分が行くしかないとした。交通違反の時期から少しほとぼりのさめた条件でもあつたし、Wが欧州から持ち帰ってきたY用の新しい旅券も入手できた。こうして、7月26日ベイルートからパリへと飛び立った。

この時、偽ドルの返却が時間に追われてなければ、もう少し話し合い、また、Yも直行便で出発するルートはとらなかつたらう。Yはパリオルリー空港で逮捕された。この逮捕から、さらに問題が大きくなり、私たちのホンヤク作戦は頓挫したばかりか、多くの組織や友人に被害を拡大してしまった。

ベイルートにいた私たちは、Yの逮捕についてまったく知らずに居た。当時の革命のためなら許されると考える知性や倫理の麻痺した私のあり方は、結局みんなを間違った方向に進む大きな要因だったに違いないととらえ返している。(つづく)



面会できました

森本 忠紀

房子さんによりますと、2年2か月ぶりだそうです、面会が実現いたしました。10月の連休明けの9日、午前中のことです。9時少し前に八王子医療刑に着きました。八王子駅から歩いて約十分、住宅街の一角に、建物がすぐ見つかりました。背の高いヒマラヤ杉が数本、緑を茂らせている前庭を横切り待合室に入りました。ただ一人、手持無沙汰で待っていると、女性が一人入って来られました。しばらくすると、その人を呼ぶアナウンスがあって、面会室へ入って行かれました。後から来た人に先を越されて、こちらは駄目なのかと不安が募りましたが、そうこうする内に、制服を着た職員が二人来られて、うち一人の上役らしき人が、主席のくらたと名乗られました。「面会に来られたわけですが、結論から申します」と言われたので、これははっきり、不許可という言葉が出てくるのかと思わず目をつぶりそうになりましたが、「許可します」と言われたときには、目の前の職員さんがいっぺんに、とてもいい人、正義の味方みたいに見えました。我ながらゲンキンなものど苦笑してしまいます。

会えた喜びと、房子さんが顔色もよくとても元気そうなのと、二重の喜びで会った途端、思わず顔が綻びました。会う前は、三度目の手術をして、まだ病み上がりで弱っているということはないだろうか？もしそんなやつれ顔の房子さんを見ることになったらどうしようかと内心、心配していました。が、まったくの杞憂で、すばらしい笑顔で迎えてくださいました。「ああ、元気そうで！」思わず口をついて出た「若返ったじゃないですか！」という言葉はその時に感じたそのまま、正直な印象です。でも、何という強靱な闘争心でしょう。三度の手術を乗り越え、こんなに元気な自分を取り戻すとは、ぼくも、ひとからよく若いといわれるし、自分でもそう思っているところもありますが、とても房子さんの真似はできません。途中で挫折して決まっています。失望はしても絶望はしないという、この人の精神力の強さは、困難な政治の闘争、そして獄中の闘争でもいかに発揮されましたが、それはまた自身の病気との闘いでも、大きくものを言ったんだと思えます。

房子さんはこれまで、友人、知人の面会申請がごとく撥ねつけられてきただけに、今回の面会実現の知ってみんなとても喜んでくれました。それだけでも行った甲斐があったと思います。しかし、せつかく喜

んだ後に、こう言うのも何ですが、世の中何といびつに歪んでることでしょう。罪なき人を十年もそれ以上も狭いところに閉じ込め、まだそれだけでは足りないとも言うのでしょうか、面会の理由が安否だけでは駄目だということが唐突に決められてしまいます。その上に、「面会が必要かどうかはこちらが決める」と言われて面会人を追い返すんですから。この国の刑務所行政というもの、一貫して、受刑者に厳しく厳しく接しなければ、緩んでいる、あるいは間違っていると解釈される世界です。

岐阜刑では、面会・文通が去年の秋、突如認められなくなるということが起こって、泉水博さんは黙っておれないと、刑務所の内から国家賠償請求訴訟を起こされました。泉水さんの決起に呼応して、外からも8人が共同で国賠訴訟を起こしました。ぼくは、そのうちの一人ですが、世間から隔離されて見えないのいいことに、いじめのやり放題、問答無用の一方的な命令、受刑者の言うことには聞かぬ、これが常識としてまかり通っているのが刑務所というところです。でも、刑務所の中は外から見えないというのは本当でしょうか？それはぼくが見ない、見ようとしないうことではないのか？そうじゃない。すでにぼくは世間の人よりはるかによく見えています。問題は、それをいかに伝えていくかということ。

30分はあまりにも短かすぎ、終わった後いつも何か忘れ物をしたような気持ちが残ってしまいます。でも、房子さんが歌を歌う許可を抜かりなく取っておいてくださって、最後に二人で「ローレライ」を歌うことができました。これは、今年の夏、ドイツ緑の党の副代表ベアベル・ヘーンさんが日本へ来てくださって、京都で交流会があったとき、誰でも知ってるドイツの民謡を歌って歓迎しようという田川さんの提案で、ぼくが三線を弾いて歌ったのが最初です。用意のいい房子さんはぼくが手紙で送った歌詞をちゃんと面会室まで持ってきて、その歌詞を見ながら歌ってくださいました。アクリル板を隔てて合わさる二つの歌声は切なく感無量としか言いようがありません。フレーズの節目ごとに、顔をあげてこちらを見る房子さんの眼と眼を合わせ、二人歌い切りました。歌は目で歌うものです。歌の心は眼に集中します。こちらにまっすぐに向けてくれる度、房子さんの黒い瞳はひととき大きくなり、人間愛の光を湛えて、心なし潤んでいました。

原発ゼロにはアメリカの許可が必要？

2012年10月1日 西浦 隆男

野田政権はこの間、2030年代の原発の比率を決めるための意見聴取会やパブリック・コメントを行い、原発ゼロを回避する術策を展開しようとしたが、原発ゼロの意見が圧倒的多数だった。この現実の前に、やむなく2030年代原発ゼロを実現するという内容を了承せざるをえなくなった。これに対し、経団連など財界が猛反発したが、とりわけアメリカが原発ゼロにノーと言ってきたため、一旦決定したことも閣議決定しなかった。元々不承不承だった原発ゼロ方針にアメリカの態度が決定打となって、事実上の方針撤回になったといえる。脱原発はアメリカが許可しない限り実現できない？ おかしいと思いませんか？ これは明らかな内政干渉です。アメリカはドイツ・イタリアが脱原発を決めても干渉はしなかった。できなかった。もし、干渉していれば、猛烈な反発を受けていただろう。だが、日本に対しては露骨に干渉してきた。政治家のみならず、マスコミなどは、このアメリカの干渉をなぜ批判しないのか？知る限り大手新聞も批判はしていないようだ。

アメリカはなぜ日本の原発ゼロに反対するのか？  
アメリカはスリーマイル事故の後、長年にわたって原発新設はしてこなかった、できなかった。最近になってオバマ政権が2件の新設を許可した。アメリカはスリーマイル以後、原発メーカーであるGE（ゼネラルエレクトリック）とWH（ウェスチングハウス）の原子力部門を東芝、日立に売りつけた。アメリカでは採算が取れなくなった原発部門を日本にばばつかみさせ、押し付けたのである。したがって、今後新設する原発は、これら日本の傘下にある原発メーカーにゆだねることになる。また、中国・ロシアなどが新興国などの原発建設に進出するのに対抗するには、これらメーカーの力が必要になる。日本が原発ゼロを選択すると、開発力がそがれ、中国・ロシアなどとの競争に遅れをとるようになる危険がある。原発はアメリカの世界的な核戦略にとって、欠かせることができない。国際的に核を管理するためにも不可欠である。アメリカではシェールガス革命が進み、今や原発に手を上げるメーカーはいない。フクシマ事故により、原発のリスクは天文学的なものになるということも含めて、原発は到底経済的に採算が取れるビジネスとはアメリカではみなされなくなった。はるかに安上がりなシェールガス等でエネルギー自給さえ夢ではないというのに、誰が原発に手を出すとい

うのか？ しかし、原発はアメリカの核支配にとっては不可欠である。新興国の原発が中国やロシアにゆだねられることになれば、アメリカによる核の管理が行き届かず、核拡散と支配力後退はとどめようがなくなる。それを阻止するためには、アメリカはコストを負担せず、全て日本に開発コストを負担させてでも原発技術を維持しなければならない。このようにアメリカは考えているのだろう。なにせ、日本という国は、到底実現することが不可能だとわかっている「高速増殖炉もんじゅ」に10兆円以上もの金を注ぎ込んでどぶに捨てても平然としている国なのだ。（世界各国はとうに撤退しているのに）。一方、アメリカは財政危機にあえぎ、軍事費さえ強制的に削減しなければならないところまで追い詰められている。（日本も財政危機ゆえに消費税を上げないといけないという論理ではなかったのかな？）

アメリカが日本の負担で原発と原発技術を維持させようという魂胆の裏には、日本がアメリカの「核の傘」の下にあるということを自ら喜んで受け入れているという、日米核安保体制という問題がある。アメリカの核の傘の下にあるのだから、原発技術の維持開発コストを負担するくらい当たり前だろうというわけだ。原発ゼロなどという選択は、この日米核安保体制自体も否定してしまう可能性があるのだから、アメリカのお許しが出来ないのは当然だろう。野田政権の腰砕けは、日米軍事同盟最優先という基本方針の元では、ある意味当然といえる。脱原発を唱えるなら、日米核安保軍事同盟にもいつかは、ノーと言わなければならない。アメリカの核の傘を認めながら、原発を止めるというのは、矛盾もいいところだ。

アメリカの今回の露骨な脱原発への介入・内政干渉は、はからずも、原発と日米核安保軍事同盟とが切り離せない関係にあるという構図を露呈してしまった。元々、戦後日本の原発拡張政策が、アメリカの主導の下に進められてきたことからしても、このことは自明であった。3・11フクシマ原発震災以降、脱原発を求める人々の切実な願いは民意として拡大定着してきた。一時的な盛り上がりでも、時間がたてばさめてしまうようなものでもない、持続的な意思として。民主党政権としてこの民意を無視できないし、次の選挙でどのような政権ができようともこの動きを圧殺することはできない。アメリカの介入は人々の怒りを買うだけである。

重信メイ著

## 角川ONEテーマ21 「アラブの春」の正体

—欧米とメディアに踊らされた民主化革命

10月10日発売 角川書店発行 820円(税込み)

本当に訪れたのは「春」ではなかった

「アラブの春」の本質はメディア戦争だったと私は思います。(中略) チュニジアやエジプトでは主役が市民でしたが、リビアやシリアではメディアが偏った報道をすることで、内戦をあおりたてました。(中略) 大きな役割をになったのは、やはりアルジャジーラです。(本文「はじめに」より)

大手メディアが伝えない「民主化革命」の真実とその裏側

\*世論形成に影響を与えたアルジャジーラの「アジェンダ」 \*世界でも類を見ないほどの福祉国家だったリビア \*カダフィ「アフリカ合衆国」構想のインパクト \*リビア天然ガス採掘権に参入する欧米諸国 \*アメリカがシリア内戦に介入する目的とは何か? \*「アラブの情報源」アルジャジーラが抱えるタブー

### 特別年末カンパのお願い

「支える会」の財政状態は一向に良くなっておりません。

購読料金を払っていない方はどうかお支払いくださいますようお願いいたします。

また、この度、重信さんの方では指定医制度を利用して歯科治療を行うことになりましたが、これはすべて自費負担で、しかも医療保険が一切ききません。このことは、獄中者の人権問題でもありますが、その費用を保証していくために、皆様に特別年末カンパを要請します。いくらでも構いません。

同封の振り替え用紙に振込み意図(購読料なのかカンパなのか)を明記して送っていただけると助かります。どうぞよろしくお願ひします。

重信房子さんを支える会

### 後書

今号から「さわさわの頁」を創りました。関西の重信房子さんを支える会で発行していた「さわさわ」が都合で休刊しています。それを補えたらと関西の方々の文章に2頁を割くことにしました。どうぞよろしく。

当初『オリーブの樹』の今号を11月1日に発行するつもりでしたが、その日に反原発の東京大集会とデモがあるので、編集室はそれに参加することを優先させて、発行を1週遅らせました。ご理解下さい。

集会は13時から日比谷公園に結集して始まることになっていましたが、東京都が日比谷公園の集会使用を認可しなかったため、参加者は15時くらいから官公庁街の数箇所、結集場所を自由に選んで参加し、思い思いに移動しながらあちこちの集会に参加するというで始まりました。歌舞伎座前に集まった人たちもいました。東京都の日比谷公園使用拒否には納得がいきませんが、移動参加の集会は様々の人たちに出会い、自由で新鮮で面白かったです。文科省の前では、中学生もスピーチしていましたし、東電の前では福島若者たちが現地で闘った成果を披露してくれました。17時からの最終結集場所、国会議事堂の前に着くと大変な混雑で立ち止まらず、ちょうど社民党や共産党の党首らが原発全面廃止の力強いスピーチをし、拍手喝采を受けていました。この日は新聞社の休刊日でもあり、夕方から雨も降り出し、ヘリコプターも飛んでいませんでしたので、参加者がどのくらいだったのかわかりませんが、主催者に依れば10万人くらいだそうです。

衆議院が解散になりました。都知事を投げ出した石原慎太郎氏は原発問題を小さなことと流していますが、立候補者や党組織が真に国民の生活を大切にするかどうかは、原発政策に対する態度に如実に表れます。これは、日本を分ける闘いではないでしょうか。そこにしっかり注目して候補者を選びたいですね。 Y

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5階

救援連絡センター気付 「重信房子さんを支える会」

郵便振替 00110-4-613941 オリーブの樹

銀行口座 三井住友銀行 赤羽支店 226-3687269 オリーブの樹

頒布価格 500円

## 「正誤」表

### 第 114 号

- |                          |  |
|--------------------------|--|
| ① 4P(若松追悼文)右下から5行目       | 悲しみを <u>強きに</u> → <u>悲しみを強さに</u>             |
| ② 4P(9/10)左1行目           | あき <u>あめずに</u> → <u>あきらめずに</u>               |
| ③ 5P(9/15)左下から1行目        | <u>虫時間</u> → <u>虫時雨</u>                      |
| ④ 7P(9/28)左上から9行目        | <u>阿部</u> → <u>安倍</u>                        |
| ⑤ 7P(9/28)左上から15行目       | <u>阿部</u> → <u>安倍</u>                        |
| ⑥ 10P(10/12)右上から7行目      | TS <u>たもんです</u> → <u>大したもんです</u>             |
| ⑦ 10P(10/12)右上から11行目     | <u>モップル</u> か。→ <u>モップル社</u> か、              |
| ⑧ 12P(10/24)2行目          | <u>八王寺</u> → <u>八王子</u>                      |
| ⑨ 15P(11/8)左1行目          | 近く <u>処遇が</u> → <u>近く処遇首席が</u>               |
| ⑩ 17P 左上から10行目           | <u>準備がはじまっていたらしい</u><br>→ <u>準備がはじまっていた。</u> |
| ⑪ 18P左上から13行目            | <u>主席</u> → <u>首席</u>                        |
| ⑫ 20P(特別年末カンパのお願いの囲み)3行目 | <u>指定医</u> → <u>指名医</u>                      |